



Taka Ishii

Gallery

1-3-2 5F Kiyosumi Koto-ku Tokyo #135-0024, Japan
tel 03 5646 6050
fax 03 3642 3067
web www.takaishiigallery.com
email tig@takaishiigallery.com

荒木 経惟「写狂老人Aのフィルム・ノスタルジー」

Nobuyoshi Araki "Film Nostalgia"

会期：2011年5月7日（土）～5月28日（土）

会場：タカ・イシイギャラリー（東京・清澄）

オープニング・レセプション：2011年5月25日 17:30-19:00

タカ・イシイギャラリー（東京・清澄）は5月7日（土）から5月28日（土）まで、荒木経惟個展「写狂老人Aのフィルム・ノスタルジー」を開催いたします。タカ・イシイギャラリーでの17回目の個展である本展では、11シリーズから構成される約600点の新作を展示いたします。

写真っていうのは、まあ写真つーか人生は、ノスタルジーだと確信をもったわけだよ。こういう光景に出会って。今のデジタルの時代にだよ、都会の真ん中でこういう棒だよ、棒をもってザリガニだか鯉を追ってるんだよ。少年時代の思い出とかさ、人生ではそういうノスタルジーが一番大切だと確信をもった。老人は（笑）。

2011年3月 荒木 経惟

前立腺癌を乗り越え、自身の死との葛藤を作品「遺作 空2」にまとめたのちの2010年3月2日、荒木は妻陽子亡きあと長年連れ添った愛猫チロの死に直面しました。幸福な時間が荒木を残して過去へと過ぎ去る中、都内の公園で出会った子供が無邪気に池で遊ぶ光景は、荒木に幸福だった時間を思う気持ち（ノスタルジー）こそが人生だと確信させます。

妻陽子と食事をし、愛猫チロが走り回った自宅のバルコニーを写した作品「楽園だった」を始め、昨年3月2日以降にあくまでフィルムにこだわり撮影した展示作品の総数約600点は、「生きることは撮ること」と語る荒木の生欲（性欲/エロス）が微塵も衰えていないことを意味します。

90歳の生涯において3万点を超える作品を残した葛飾北斎に挑み、「写狂老人A」を名乗る荒木の、フィルムによる表現の限界を探る作品群を是非この機会にご高覧ください。

作品集「写狂老人Aのフィルム・ノスタルジー」5月25日発売予定

販売価格：¥4,200-（税込み）、タカ・イシイギャラリー刊（2011年）、500部限定、ソフト・カバー、96頁、掲載作品408点、H260 x W261 mm

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願い致します。尚、掲載用写真の貸出など、御質問ございましたら下記までお問い合わせ下さいませ。

展覧会担当：上松エリサ プレス担当：増山貴之

tel: 03-5646-6050 fax: 03-3642-3067

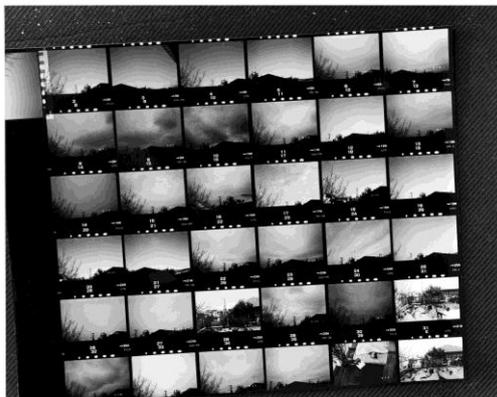
e-mail: tig@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com



荒木 経惟

「ノスタルジー」2011年

B & W プリント、プリント・サイズ:50.8 x 60 cm



荒木 経惟

「樂園だった」2011年

B & W プリント、プリント・サイズ:50.8 x 60 cm



荒木 経惟

「ベ淫ティング」2011年

RC ダイレクト・プリント、プリント・サイズ:45.7 x 56 cm